

あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行

2022年6月1日

(第15号)

6月



「衣替え」

日本で衣替えをする時期は、一般的に6月

1日、10月1日となっています。衣替えは、

暑さや寒さの変わり目に季節に合わせた衣服

に着替える習慣のことをいいます。日本には

四季があり、季節によって天候や気温の変化

があるため、古くから季節に合わせて衣服を

替える作業をしていたことから衣替えの習慣

が定着したと言われています。

衣替えの由来には諸説ありますが、中国で

始まった習慣であると言われています。かつ

て中国の宮廷で旧暦の4月1日と10月1

日に夏服と冬服を入れ替えていた習慣が、

平安時代ごろ日本に伝わり「更衣」という形

で呼ばれるようになり、宮中行事として

定着したようです。しかし「更衣」という言葉

は、衣服を替えるという意味があったほかに、

帝の着替えを担当する女官の役職名でもあ

つたことから「衣替え」という名称に呼び
名が変わったと言われています。

江戸時代になると、衣替えは年4回に増

え、江戸幕府は季節の衣で出仕すること

を制度化。しかし、当時の人々がみな季節

の着物を持っていたわけではありません。

季節が変わると手持ちの着物をほどこいて、

次の季節用に仕立て直し、生地痛みを押

さえる虫干しなども行います。持っている

着物を複数の季節、何年も着るために衣替

えは必要な行事だったと言えます。

『四月一日』という珍しい姓があるのを「

存じでしょうか?」わたぬき」と読みます。

冬の間は「綿入れ」という表地と裏地の間

に綿が入った着物を着て、旧暦4月1日に

なると綿入れの綿をぬく…。こんなところ

にも昔の衣替えの習慣がしのべれます。

「男性、お父さんの読み聞かせ③」

～お父さん(男性)の読み聞かせが効果的なワケ その2～

「お父さんが絵本を読んでくれると『特別扱いされてる!』と感じるから」

家でも保育園や幼稚園でも読み聞かせをしてくれる人は女性が多いので、子ども心に「読み聞かせは女性がするもの」と思われていて、お父さんが本を読んでくれると「特別扱いされている!」と感じるらしいのです。大事にされているという気持ちが脳にいい影響を与えているのかもしれないですね。

☆男性の読み聞かせにおすすめの絵本☆

三浦太郎	「くつついた」	0歳～
日野十成	「かえるをのんだととさん」	3歳～
川端誠	「落語絵本 まんじゅうこわい」	5歳～

☆次回☆ 『絵本から児童書へ』です

今だから読んでほしい



「おかあさんのいのり」

作:武鹿悦子
絵:江頭路子
出版社:岩崎書店

「このかわいいても いつか
おかあさんのてをつつみこむほど
つよく おおきくなるでしょう
そのてが どうか 銃などにぎ
りませんように」

子どもの幸せとは何か、親として生きる幸せは何かを親子で一緒に感じ考えることができる絵本。世界中の子どもたちから平和を奪わないでほしい。母の子への愛情は万国共通。平和への願いをこめておくる一冊です。

5月20日に朝日小学校の2年生が生活科の授業で図書館に来てくれました。図書館内の案内、本の借り方や返し方、読み聞かせを行いました。2年生からは様々な質問が飛び出し、とても楽しいひとときでした。図書館に来たのは初めてという子もいましたので、これをきっかけにぜひ図書館足を運んでもらいたいですね。

朝日小2年生来館



図書館内の案内、本の借り方や返し方、読み聞かせを行いました。2年生からは様々な質問が飛び出し、とても楽しいひとときでした。

図書館に来たのは初めてという子もいましたので、これを

きっかけにぜひ図書館足を運んでもらいたいですね。



「おつかい」

作・絵:さとうわきこ
出版社:福音館書店



「コッコさんとあめふり」

作・絵:片山健
出版社:福音館書店

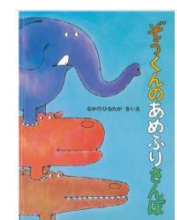


「あめふり」

作・絵:さとうわきこ
出版社:福音館書店

梅雨の時期におすすめの絵本

梅雨の時期は外遊びもなかなかできず鬱々としてしまいがちですが、この時期の絵本は「雨、かさ、カエル…」など、読み聞かせにおすすめの本がいっぱいです♪



「ぞうくんのあめふりさんぽ」

作・絵:なかのひろたか
出版社:福音館書店



「すてきなあまやどり」

作・絵:パリー・ゴッパチョ
出版社:徳間書店



「いいからいいから」

作:長谷川義史
出版社:絵本館